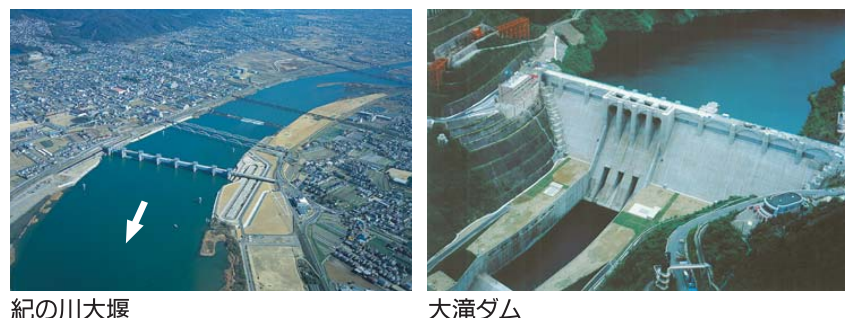


洪水を安全に流すために

大滝ダム、紀の川大堰の早期完成をめざします

対策

紀の川大堰は堰本体が完成し、現在、水を貯め始めています。しかし、新六ヶ井堰（旧堰）の撤去、北田井ノ瀬橋の架け替え、JR阪和線の橋梁対策、河道掘削などが残っており、早期に治水効果が発揮できるように引き続き事業を行っていきます。また、大滝ダムについては貯水池*内の地すべり*対策を行い早期の完成をめざします。



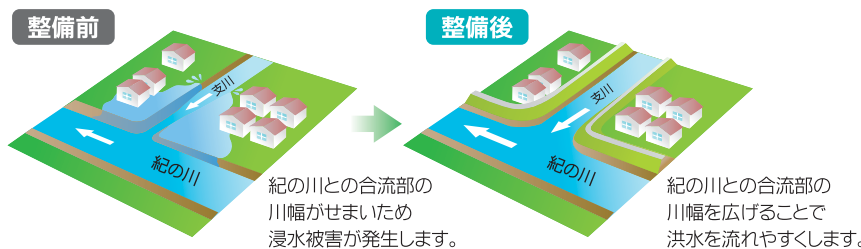
紀の川大堰

大滝ダム

支川との合流部の水を流れやすくします

課題

支川の鳴滝川、七瀬川、桜谷川、橋本川、柘榴川の指定区間（県管理区間）では、近年に発生した浸水被害などを契機に改修が進められていますが、紀の川との合流点付近で川幅や樋門の出口が狭くなっており、洪水を安全に流すことができません。



橋本川の浸水被害状況（平成7年7月） 鳴滝川の浸水被害状況（平成元年9月）

対策

上記5支川の改修と連携しながら合流点部分の対策を行います。また、その他の支川についても支川の改修と連携しながら対策を行います。

堤防の安全性を高めるために

堤防の調査を行い安全な堤防をつくります

課題

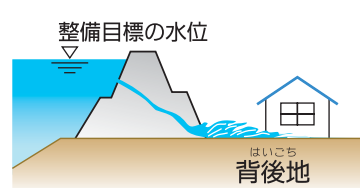
堤防は、川を掘削した土砂などを利用してこれまで築いてきました。そのため、堤防が整備されている箇所でも図で示した漏水*、法くずれ・すべりなどが起こる箇所があります。

対策

堤防の安全性について点検し、安全性が確保されていない堤防については、緊急性の高いところから対策を行います。

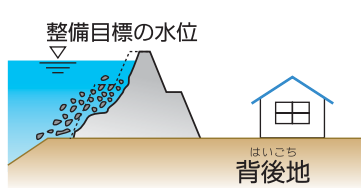
● 対策の必要な堤防

漏水



川の水が堤防の中にしみこみ、堤防から水がしみ出ることです。

法くずれ・すべり



洪水や地震などの大きな力が堤防に加わることによって、堤防の法面*がくずれたりすべり落ちたりすることです。

緊急時のすばやい対応のために

洪水時の河川情報の収集・提供および水災害の予防と防止の対策を行います

■ 光ファイバーネットワークを活用した河川情報の収集

課題

洪水による災害を未然に防止したり、みなさんに避難を早く呼びかけるためには、洪水の情報を自治体やみなさんにわかりやすく伝える必要があります。

対策

紀の川全川に光ファイバーネットワークを整備して、自治体やみなさんがすばやく洪水の状況を確認できるように情報提供します。



■ 洪水ハザードマップ*作成に向けた支援

課題

堤防やダムの整備は、洪水に対して有効ですが、すぐに完成することができません。そこで、みなさんの避難行動が重要となってきます。

洪水ハザードマップは、みなさんが避難する際の情報を市町村が作成し、お知らせするものです。しかし、現在、紀の川流域の市町村ではこの洪水ハザードマップの作成が遅れています。

対策

洪水ハザードマップ作成に向け、協議会を設置するなど市町村を支援していきます。



洪水ハザードマップ作成に向けた協議会の設置

(河川管理者(国土交通省)、県・市・町、住民)

- 避難計画
- 土地利用のあり方

洪水ハザードマップの公表

地震発生後の支援活動をスムーズに行います

■ 緊急用河川敷道路の整備

課題

阪神淡路大震災では、道路に建物や電柱などがたおれて避難や救援物資の輸送がスムーズに行えませんでした。

対策

紀の川では河川敷に緊急用河川敷道路を整備し、地震発生後の避難や救援物資などの輸送ルートを確認します。



緊急用河川敷道路位置図

津波に対する情報収集・伝達を行います

課題

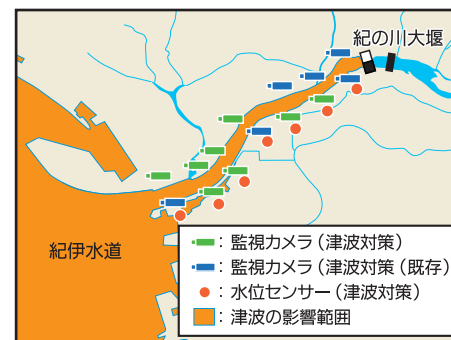
東南海・南海地震が発生すると、紀の川河口には約50分で津波の第一波、約100分で第二波が紀の川に押し寄せると想定されます。その津波の高さは最大で高水敷*から1.5mの高さになります。



放流警報設備

対策

河口から紀の川大堰の区間に水位センサーや監視カメラを新たに設置し、津波情報を収集し、既設の放流警報設備を利用して情報を伝達します。



監視カメラと水位センサーの設置位置